冗長×××故×効率性

植村仁一

近頃は何事にも効率性を重視され、冗長＝無駄として排除される風潮がある。

日本語では表音（仮名）表意（漢字）両種類の文字が使われている。そこで、少ない字数で文意が通るのを「効率的」と定義し、表意文字だけにしてみた。

これはある小説の冒頭を漢字だけにしたものである。最初の三文字で題名がわかる。

吾輩猫名前無。何処生見当。
何薄暗所泣事記憶。
吾輩始人間見。聞書生人間
中一番獰悪種族。

次も有名な古典文学だ。こちらは最初の四文字でわかる（題名ではない）。

祇園精舎鐘聲、諸行無常響、沙羅雙樹花色、盛者必衰理。驕人久、春夜夢如。猛者滅、風前塵同。

いずれも漢文としては語順がおかしかったり、否定の助動詞「まだ（未）～ない」「ず（不）」が仮名書きのために消え去っており、意味が取りづらいところもあるが、大方の日本人は両方とも出典がわかる（元の文章を諳んじてみたりしている人もある）だろう。

次に前者を全部平仮名にしてみる。ついでに句読点も取る。これは「冗長なものだけで書いた文章」となる。

わがはいはねこであるなまえはまだないどこでうまれたかとんとけんとうがつかぬなんでもうすぐらいじめじめしたところでにゃーにゃーないていたことだけはきおくしているわがはいはここで……（後略）

何とも読みにくい。今度は後者の仮名の部分を伏せ字にする。字数だけは合うことになる。

祇園精舎×鐘×聲諸行無常×響××沙羅雙樹
×花×色盛者必衰×理×××××騎××人×
久×××××春×夜×夢×如×猛×者××
×××滅×××××風×前×塵×同×

戦時中の「墨塗り教科書」のようだが、ともあれ、表意文字が残してあれば、単体では意味のない表音文字を伏せても、それがうまい具合に区切り記号となっているように見え、全部漢字や仮名で書いたものよりははるかに読みやすいし、眺めるだけで大意は取れる。

ただ、この二例は有名すぎて、出典を知らない人は少ないだろうし、かなり「わざと」感がある。次は前の二作に比べれば「題名は知っているが出だしは知らない」率の高そうなものである。

「武蔵野×俤×今×××入間郡×残××」
×自分×文政年間×××地図×見×××
××。

国木田独歩「武蔵野」の冒頭である。元の文章は以下のとおり。多くの人がほぼ正確に意味を取れたと思う。

「武蔵野の俤（おもかげ）は今わずかに入間郡に残れり」と自分は文政年間にできた地図で見たことがある。

さて、次はある新聞記事の漢字と数字、記号類を残し、残りを伏せ字にしたものである。

五月生産者物価指数前月比－〇・六〇％……二×月×下落勢

世界景気不振、国際原材料価格下落××影響××、国内生産者物価×二×月×××××。韓国銀行×一一日×××「二〇一二年五月生産者物価指数」資料×見×前月対比生産者物価×四月〇・一％落××続××五月×××〇・六％下××。五月×下落幅×二〇〇九年一〇月－〇・八％以後最×大×。（「ソウル経済」六月一一日電子版記事）

出典のとおり、韓国紙の記事であり、伏せ字には当然ハングル文字が入る（実は少し漢字を増やしてある）が、表意文字の漢字と、適当な区切りがある、というだけで大意がつかめる。これは素晴らしいことだ。実際の記事は下の囲み記事のように漢字はひとつも入っていない。

これは上記で「猫」を平仮名にしたのとは少し違う。最初の四文字「세계경기」が漢字の「世界景気」に対応する（仮名の「せかいけいき」ではない）のだ。仮名書きよりも効率はよさそうだが、ハングルを知らない人には、どこが漢字で、どこがそうでないのか、まったくわからない。

韓国では以前、漢字ハングル交り文が多く使われた。しかし、「脱漢字」が進み、今では普通の日本人には意味がわからなくなってしまった。漢字仮名交り文と漢字ハングル交り文、お互いの新聞や本を「眺めると何となくわかる」だけで日韓の文化交流は「効率的」に進むだろう。冗長＝無駄、ではなく、冗長部分が効率性を担うことがありうると感じた瞬間を書き留めてみた。ちなみに表題はもちろん「冗長なるが故の効率性」である。

5월 생산자물가지수 전월比 -0.6%…2개월째 하락세

세계경기 부진, 국제원자재 가격 하락 등의 영향으로 국내 생산자물가가 2개월째 떨어졌다. 한국은행이 11일 내놓은 '2012년 5월 생산자물가지수' 자료를 보면 전월 대비 생산자물가는 4월 0.1% 떨어진 데 이어 5월에는 0.6% 낮아졌다. 5월의 하락폭은 2009년 10월 -0.8% 이후 가장 크다.

うえむら　じんいち／アジア経済研究所　経済社会展望研究グループ